

2021 年度第 2 回(一社)日本生物物理学会理事会議事次第

日時:2021 年 9 月 18 日(土)12:30~18:10

場所:東京大学(オンライン開催)

出席者: 理事総数 19 名 出席理事 18 名 (代表理事を含む)

代表理事(会長)	野地 博行	理事(副会長)	今田 勝巳
理事(副会長)	佐甲 靖志	理事	相沢 智康
理事	飯野 亮太	理事	片山 耕大
理事	小島 清嗣	理事	古寺 哲幸
理事	杉田 有治	理事	田中 良和
理事	田端 和仁	理事	寺川 剛
理事	永井 健治	理事	南後 恵理子
理事	西坂 崇之	理事	村田 武士
理事	山下 敦子	理事	渡邊 力也

監事: 監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 神取 秀樹

オブザーバー:

邦文誌編集委員長	高橋 聡
2021 年度年会委員長	
欧文誌編集委員長	中村 春木
ウェブサイト編集委員長	飯野 亮太(理事と兼任)
東北支部長	田中 良和(理事と兼任)
中部支部長	鈴木 健一
関東支部長	高橋 浩
中国四国支部長	松木 均

陪席者:

学会事務局 向井 牧子

議長:代表理事(会長) 野地 博行

議事録作成者: 片山 耕大

報告事項:

1. 2021 年度年会準備状況(高橋聡):報 1
 2. 2022 年度年会準備状況(相沢)
 3. 2023 年度年会準備状況(神取)
 4. 出版委員会報告(佐甲):報 4
 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告(今田):報 5
 6. 国際関係委員会(IAC)報告(西坂):報 6
 7. 賞・助成金推薦委員会報告(佐甲):報 7
 8. 地区報告
 - 北海道支部(相沢):報 8-1
 - 東北支部(田中)
 - 関東支部(高橋浩)
 - 中部支部(鈴木):報 8-2
 - 中国四国(松木)
- その他

審議事項:

1. 出版委員会関連議題(佐甲):議 1
 2. 国際関係委員会(IAC)議題(西坂):議 2
 3. 日本生理学会大会における共催シンポジウム について(野地):議 3
 4. 学生会員会費の変更について(野地):議 4
- その他

連絡事項:

1. 次回理事会日程について(野地)
- 2021 年度第 3 回理事会
日時:2021 年 11 月
場所:オンライン

定足数の確認:

理事会の審議に先立ち、議長・野地博行氏より定足数の報告があった。

理事総数 19 名のうち、出席者 18 名により過半数を超えた。

報告事項:

1. 2021 年度年会準備状況 (高橋聡): 報1

高橋聡氏より 2021 年度の年会準備状況の報告があり、近々懇親会セットの販売が開始される旨が報告された。

● プログラム、一般講演、シンポジウムについて

- プログラム案が作成され、一般演題 628 題を 16 チャンネルに割振り、配置完了した。
- 座長の先生を選別し、決定した。
- 各セッションにつき、10~13 演題程度を割振り、2 人の座長を配置した。
- シンポジウムは各オーガナイザーに発表時間や司会進行の方法を一任する。
- 11 月 24 日 (水) サテライトシンポジウムを PDBJ 主催で開催予定。
- 日印シンポジウムは、インド側の学生会員にシンポジウムの参加を認め、当シンポジウムの座長に、Zoom アドレス等を伝え、座長の判断でアドレスを共有してもらう。
- 一般演題の動画は会期中及び会期後一定期間は視聴可能にする。
- シンポジウムは、オーガナイザーからの了解が得られた場合に限り、会期後 1 週間程度オンデマンド配信する。
- 総会シンポジウムはタンパク質の構造予測に関する内容。講演者は、森脇氏 (東大・農)、小杉氏 (分子研) の 2 名に決定した。

● 市民講座について

生物物理ワークショップを企画。主に高校生及び高専生向けに参加者を集う予定。

● 高校生発表について

宣伝活動が少なかったため、高校生あるいは高専生からの発表申込ゼロ。

● oVice について

学会期間中の雑談の場と懇親会のために oVice を用いることを計画した。

● SNS について

年会 twitter を立ち上げた。今後、年会当日まで、会期中など広く活用予定。

- 企業協賛について
現在までに 400 万円程度 (4,056,800 円) 集金済み。
- 予算について
収支予算案、支出予算案について報告があり、現在までに 86 万円程度 (863,670 円) の赤字案。ただし、運営側 (具体的にはアルバイト学生等) の人員を減らすことや、Zoom 管理のためのパソコン使用部屋を東北大の講義室を使用するなど工夫をこらし、最終的には 100 万円前後の黒字案となる見込み。
- 懇親会について
懇親会セット (日本酒及びおつまみ等) を事前に販売予定。時期は 9 月 24 日 (金) 頃開始予定。
- 閉会式について
年会最終日 11 月 27 日 (土) に閉会式を実施予定。

2. 2022 年度年会準備状況 (相沢)

相沢智康氏より、2022 年度函館年会に関する準備状況について報告された。

- 開催場所: 函館アリーナ + 市民会館 (1370 名収容可能な大ホールあり)
 - 会場について、過去に 1000 名以上の規模の学会開催の実績あり。(過去最大は 2500 名規模の経験あり)
 - 発表形態について、全件一般演題口頭発表は不可。ポスター発表は函館アリーナ内で実施可能。

3. 2023 年度年会準備状況 (神取)

神取秀樹氏より、2023 年度名古屋年会に関する準備状況について報告された。

- 開催場所: 名古屋国際会議場、ほぼ決定。
- 開催時期: 11 月 14 日 (火) ~ 11 月 16 日 (木)

4. 出版委員会報告 (佐甲): 報 4

- 佐甲靖志氏より生物物理誌の出版状況について、順調に出版している旨が報告された。
- 和文誌フォーマットの変更について、BPPB 誌の文献スタイルの改訂に合わせて、和文誌も文献スタイルを変更する旨が報告された。
- BPPB 誌の発刊状況について、昨年を発刊数を超える旨が報告された。

- BPPB の学会 web page の改修について報告があり、前回の理事会で承諾された改修に係る予算について、内容の変更に伴い若干、増額する旨が伝えられた。
- ウェブサイトの改訂について報告があり、英語ページに日本語が紛れ込んでいたため、変更する旨が伝えられた。
- SNS の活用状況について報告があり、Twitter フォロワーは 1019 人、Facebook は 426 人が生物物理学会をフォローしている旨が伝えられた。

5. 男女共同参画・若手支援委員会報告(今田):報 5

- 今田勝巳氏より年会各種担当分の進行状況について以下のとおり報告があった。
 - 男女若手シンポジウムについて、スピーカー 3 名から受諾された。
 - キャリア支援相談会について、資料 2 に詳細な記載があることが伝えられ、スピーカーはアカリク博士卒の人が決定、個別相談会は年会サイトから案内を載せる依頼をする予定であり、人選含め順調に進んでいる旨が伝えられた。
 - 若手奨励賞について、応募 38 件 (昨年 25 件) に対して 1 次審査を行い、10 名の候補を決定し、承認された。
 - 学生発表賞について、応募 149 件 (昨年 123 件) のコマ割りが完了し、審査員の候補原案も完了、座長等の調整をしてから依頼予定の旨が伝えられた。
 - 男女共同参画協会連絡運営委員会について、大規模アンケートの協力依頼 (10 月 20 日～11 月 20 日) が来たことが伝えられた。アンケート解析の担当は生物物理学会としては須藤雄気氏が任命されているが、男女若手委員会で解析の協力を行う旨が伝えられた。また、20 期の幹事は生物物理学会が担当であり、学会からは原田慶恵氏と須藤雄気氏が担当する。さらに、男女共同参画学協会連絡会 HP に「無意識バイアスコーナー」が設けられ、宣伝要求の報告があった。
 - 第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 10 月 9 日にオンライン開催予定であり、生物物理学会から杉田有治氏、山下敦子氏、原田慶恵氏、須藤雄気氏が参加予定。

6. 国際関係委員会 (IAC) 報告 (西坂):報 6

- 西坂崇之氏よりジョイントシンポジウムについて現状報告がなされ、中国、台湾、および「アジア 1 分子」(韓国、シンガポール、中国から構成) の今年度開催がない旨が伝えられた。オーストラリア、インドは開催予定。加えて、新たに林久美子氏が主体となり、米国とのジョイントシンポジウムを設立した。
- IUPAB 関連について、現状報告がなされ、①各国カOUNシルが変更になったこと、②日本から新カOUNシルとして、西坂崇之氏が 6 月末の選挙の結果、当選した旨が報告された。
- 20th IUPAB Congress 2021 @ ブラジルの開催について、報告がなされた。オンライ

ン開催予定であり、従来の若手参加者への参加料補助（参加費、渡航費など、およそ一人当たり 5 万円の補助）に関して、今年度は参加費のみ補助する方向。申請者は4名であり、メール審議の結果を経て、申請者全員に補助する。

➤ IUPAB Congress “Kyoto2024”関連について、西坂崇之氏より報告がなされた。準備委員会を発足し、8 月 28 日に第一回会議を行い、実行委員会体制、役割担当について第 1 案を提示した。

7. 賞・助成金推薦委員会報告（佐甲靖志）：報 7

佐甲靖志氏より、賞・助成金推薦委員会の報告があった。

8. 地区報告

北海道支部（相沢）：報 8-1

- 相沢智康氏より北海道支部の会計報告がなされ、収入合計が 60,004 円、支出合計は 41,483 円であり、コロナ禍の影響で例年行われている支部会が開催できていないため、その補助金等が浮いている旨が報告された。

東北支部（田中）

- 田中良和氏より東北支部の活動は全て年会準備に充てている旨が報告された。

関東支部（高橋浩）

- 高橋浩氏より関東支部のこの期間での活動は特にない旨が報告された。

中部支部（鈴木）：報 8-2

- 鈴木健一氏より昨年度 2021 年 3 月 31 日に開催した中部支部講演会について報告がなされ、Zoom を用いた口頭発表 16 件、REMO を用いたポスター発表 16 件があり、参加者は合計 62 名、大盛況であった旨が報告された。
- 優秀発表賞、学生 2 名、研究員・助教 1 名を選出し、受賞者に賞状を送付した。また、賞状代及び発送費として合計 1559 円を出費した。
- 講演会の昼休憩中に総会を開催し、会計報告、支部長選出、次年度世話人選出を行い、次期支部長：鈴木健一氏、幹事：古谷祐詞氏、古寺哲幸氏、会計：廣澤幸一郎氏、次期世話人：古谷祐詞氏を選出した。

中国四国（松木）

- 松木均氏より中国四国支部のこの期間での活動は特にない旨が報告された。

審議事項:

1. 出版委員会関連議題(佐甲):議 1

- 邦文誌「生物物理」次期 副編集委員長の選出について、松浦友亮氏 (東工大)、高木拓朗氏 (奈良県医大)の2名に決定したことが佐甲靖志氏より報告され、承認された。また、松浦氏は「Biophysics and Physicobiology」誌編集委員会の編集委員も兼務することが承認された。
- 中村春木氏より BPPB web page の更新自動化システムを改善し、出版委員会で承認された旨が報告された。また、改善費用 132,000 円は科研費より支払い、理事会により承認された。
- 中村氏より組版作成の簡略化について報告がなされ、理事会により承認された。
- 上記のような、科研費の枠内における BPPB の活動に関する軽微な支出変更は、審議事項ではなく報告事項とすることが理事会により承認された。

2. 国際関係委員会 (IAC) 議題(西坂):議 2

- ジョイントシンポジウム関連
 - 2021 東北年会の日印ジョイントシンポジウムで、インド側の学生を無料で聴講させる企画がオーガナイザーより提案され、年会実行委員会と進めている旨が報告され、理事会により承認された。
 - アジア生物物理連合 (ABA) に所属する他国の生物物理年会の会員は、これからの年会において、生物物理学会の会員と同様の資格で参加できるようにする旨が提案され、理事会により基本方針は承認された。
- IUPAB Congress “Kyoto2024”関連
 - 2024 年の年会は、IUPAB Congress と融合した形で開催するため、以下の準備委員会のメンバーで進めることが提案された。
大会委員長、実務担当委員会、プログラム担当委員会、資金調達委員会から構成。
これについて理事会により方針が承認された。

3. 日本生理学会大会における共催シンポジウム について(野地):議 3

- シンポジウムタイトル「バイオセンシング研究の最前線」と連携で開催することについて、理事会により承認された。

4. 学生会員会費の変更について(野地):議 4

- 学生会費検討タスクフォース (TF) 報告について、理事会により会費の無料化についての基本方針は承認された。

連絡事項:

野地博行氏より、次回理事会は11月年会前に開催予定の旨の連絡があった。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は18:10に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

2021年9月18日

一般社団法人 日本生物物理学会 2021年度第2理事会

代表理事	野地博行(印)
監事	神取秀樹(印)